

銀座街づくり会議

http://www.ginza-machidukuri.jp

〒104-0061 中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

*メール配信をご希望の方はお知らせください*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています*本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます*

中央区では、臨海部の人口増加、築地の移転問題、晴海地区に予定されているオリンピックの選手村建設とその跡地利用等を前提に、臨海部と都心を結ぶ基幹交通システムの検討を始めています。そのなかで銀座の内部にBRT（連節バス）を通す（のちにLRTに変換する）という案が浮上り、銀座ではそのルートをめぐる大議論となりました。また、銀座には他にも交通問題がたくさんあります。

そこで、5月に中村文彦先生（横浜国立大学大学院教授）にお

願い、銀座の交通をテーマとしたシンポジウムを開催し、その後、7月から10月までの4回、中村先生とともに勉強会を行ってきました。先生から出していただくたたき台をもとに意見を出し、次回の資料に盛り込んでいただく、という形です。

それらの成果をまとめ、12月2日（月）、「銀座の交通グランドデザインを考える」と題したシンポジウムを開催しました。会場となった十字屋ホールには180名を超える方々が集まり、熱気にあふれました。

銀座街づくり会議シンポジウム「銀座の交通グランドデザインを考える」

中央区とともに、交通グランドデザインを描き、銀座基幹交通システムの実現を

中村文彦先生にまとめていただいた考え方は以下のとおりです。

・現状の課題（歩行者、自転車、自動車、荷捌き等の交通手段別、一方で各通り別）、さらに駐車、駐輪と問題を整理し、対応方針を提示した上で、銀座の交通の優先順位は「歩行者—公共交通—自転車—自動車」の順とします。

・基幹交通システムとして、BRTではなく最初からLRTを導入します。決断から5年で導入できた前例があります。

・ルートは2案。①新橋ルート（環状二号線を利用し、銀座との接点は1カ所のみ）、②晴海通りルート（環状二号線より、新大橋通りを通して晴海通りに入り、東京駅へと抜ける）。銀座にとっては、にぎわいを増すために②がよりふさわしいと考えます。

・②案の場合、四丁目交差点を中心に晴海通りに大胆な歩行者空間（常時）を設けます。

・いずれのルートにおいても、銀座内を周遊する小さな交通手段を同時に考えます。

この提案に対し、中川大先生（京都大学大学院教授）は「歩行者空間を豊かにすること、公共交通を便利にすること、自動車を上手にコントロールすることは、街の活性化を促す交通政策の3点セットであり、このことは、1980年代から世界的な常識になっていて、もはやその是非を問う段階ではない。交通の議論は、街が生きるか死ぬかに関わる重要な議論。細かい論点はたくさんあるが、街を良くするために皆が少しずつ我慢することで大きなプラスにつながる。そのプラス面を評価してほしい」とコメントしました。

岡本圭祐さん（銀座街づくり会議副議長）は、「銀

座内周遊ルートの内部は歩行者専用空間にしてはどうか。今の段階では大いに理想論を戦わせ、50年後に本当によかったと言えるプランを考えたい」と述べ、谷澤信一さん（銀座街づくり会議議長）は、「オリンピックは数十年に一度のチャンス。この機をとらえ、なるべく早く全銀座の意思を統一し、行政との交渉をスタートさせたい」と姿勢を表明しました。

それらに対し吉田不曇さん（中央区副区長）は「オリンピックが決まり、当初提案よりもより大きなグランドデザインが必要になっている。この1、2年でしっかりした計画をつくり、きちっとした公共投資を引出さなければならない。区は今日の提案を重く受け止め、来年から、広域的な都市計画をふまえたグランドデザインの検討を、銀座と一緒にさせてもらいたい」と述べました。

基幹交通システムは、銀座だけの意思で実現するものではありません。行政ときめこまかな議論をし連携しながら、協議型まちづくりによる交通政策づくりを目指したいと思います。

【シンポジウムの資料について】

*DVD 貸出しております。

*配布資料 A3資料は実費700円でお分けしております。データ送付は無料です。

*議事録 ただいま作成中です。

できましたらHPにてお知らせいたします。

【問合せ先】銀座街づくり会議(担当:黒田)

tel: 03-3567-1535

mail: info@ginza-machidukuri.jp